

「知事とのわいわいミーティング」(平成19年2月9日実施)南部会場の概要について

「知事とのわいわいミーティング」を2月9日(金)午後1時から、南部町の「南部町保健福祉センターぼたんの里」で開催しました。当日の概要をお知らせします。

「知事とのわいわいミーティング」は、知事と県民の皆さんが、青森県の未来を創るために直接意見交換をする場です。今年度は、合併した市町にうかがって実施することとし、南部町は3回目の開催となりました。

当日は、約20名の町民の方と地元の南部町長が参加され、9名の方からご提言・ご提案がありました。

その概要は、次のとおりです。

三村知事あいさつ

本日は、ご多忙のところ、お集まりいただき、また、町長さんもおいでいただき、ありがとうございます。



今年度から、県内3か所で地域県民局を試行的にスタートさせましたが、地域県民局での取組みを進めていく中で、それぞれの地域には、商工業、農林水産業、観光など、さまざまな課題があることを認識しました。来年度からは、更に、各分野を担当できる部署を設けて、総合的な出先機関にしていきたいと考えています。

さて、「知事とのわいわいミーティング」は、合併した市町で地域の方々とお会いし、アイデアや工夫が必要なところについて、県民の方々の生の声をいただき、県の施策に反映させていく仕組みです。地域住民の皆様方、それぞれの思い、忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。

司会

本日は、南部町の工藤町長様にオブザーバーとしてご出席いただいておりますので、一言ご挨拶をお願いします。

南部町・工藤町長

本日は南部町、達者村に、ようこそ足をお運びいただきました。

まさに達者村の生みの親であります知事に、今日は、ここ南部町においでいただき、感

謝申し上げたいと思います。

地元の参加者の皆さんには、それぞれの立場から、それぞれの声を、忌憚なく、述べていただきたいと思います。

今、どこの自治体においても財政状況が厳しいのですが、このようなときにこそ、知恵を出し合い、工夫しあうことが大事です。そのような中、南部町では、達者村づくりを合併後の町全体に拡大し、発信しています。知事には、全国各地で達者村をPRしてもらっていることに感謝申し上げます。良いモデルとなるよう頑張っていきたいと思います。

司会

本日出席している県の職員を紹介します。

(県からは、三八地域県民局の中島局長、政策調整課の石崎課長、高齢福祉保険課の福田課長、その他関係課の職員が出席しました。)

それでは、さっそく意見交換に入らせていただきます。

本日は、「団塊の世代対策、都市との交流」をテーマに、ご意見やご提言をお話いただくこととしております。

進め方としまして、まず皆様から自己紹介ということで、現在、取り組まれていることとか、ふるさとのことで自慢したいことなどを、手短かに、おそれ入りますが、1、2分程度で、お話しただければと思います。

その後で、団塊の世代対策、都市との交流というテーマに沿って、将来の青森県づくりに向けてのアイデアや提案を、3、4分程度でお話しいただきたいと思います。

限られた時間でございますので、発言時間も十分ではないかと存じますが、どうぞご協力くださるようお願いいたします。

発言者1(50歳代・男性)

達者村では部会を作っており、私は、達者村づくり委員会体験・達人部会に所属しています。また、達者村農業観光振興協会の会長をも務めており、通年観光を目指しています。

発言者2(50歳代・男性)

南部サマーフェスティバルという、花火大会を中心としたイベントの実行委員を務めています。

南部サマーフェスティバルは、平成3年に、南部町商工会青年部などを中心にして始まりました。このイベントは、趣旨に賛同した若者たちがボランティア精神で参加しています。自慢になるかもしれませんが、ポスター作りから協賛金集め、イベントの企画などを、行政に全く頼らずに行っています。

発言者3(50歳代・女性)

農業を営んでおります。

ホームステイを始めて15年になりますが、いろいろな方を受け入れてきました。宿泊

された方のほか、日帰りの方も含めると、600人くらいの人々との出会いがありました。北海道から九州まで、外国では、韓国、モンゴル、ドイツの方々を受け入れて、感動と喜びを味わいながら、今まで取り組んできました。

発言者4（50歳代・男性）

なまず研究会でなまずの養殖に取り組んでいます。

平成2年当時、ふるさと創生事業の活用をめぐって、馬淵川を利用できないかと話し合っているうちに、子どもころ、氾濫した川からあがったなまずを大人たちがうまいうまいと食べていたようなことがありましたので、なまずが何か起爆剤になるのではないかと考えて、始めてみました。

秋篠宮様がなまずの研究をしていらっしゃるということは有名です。

達者村づくり委員会では、企画・宣伝部会に所属しています。

発言者5（70歳代・男性）

達者村で、体験型の農業観光に取り組んでいます。

雨除けハウスを活用したものの栽培に取り組んでいきたいと思っています。

達者村にかかわることで、一番良いことは何かと言いますと、健康で元気でいられるということです。

発言者6（50歳代・男性）

私は、旧福地村以来の「ジャックドまつり」の実行委員を務めています。

「ジャックド」というのは、方言で「いっぱい」「たくさん」という意味です。

平成2年、祭りが始まった当初は、5千人くらいの来場客数でしたが、去年は約3万5千人の規模にまで拡大し、この県南でも有名な祭りになりました。これをまだまだ続けたいと思います。

発言者7（60歳代・男性）

今までの6人の方々は、達者村で、それぞれ担当を持って頑張っている方々でしたが、私は、八戸で建設業にたずさわりながら、また南部町にも事務所を構えて、町内会にも参加するといった形で、地域の声を聞きながら、町の行政に参画しています。

この地に生まれ、「金の卵」と言われながら集団就職し、働きながら学校を卒業して、また地元に戻ってきて、30年以上になります。

ご存知のように建設業には大変厳しい時代ですが、女性も含めて団塊世代の方々が、少しの投資でできることとして、家庭菜園的なものに取り組めるよう、土壌の改良について研究しています。

司会

どうもありがとうございました。

7名の方から自己紹介いただきましたので、次に、将来の青森県づくりに向けたアイデア、ご提案をお話しいただきたいと思います。

発言者1

私も団塊の世代に属しています。どこに行くにも、何をするにも、大変な時代の中で育ちました。

さて、今、達者村ではさまざまな取組みが行われていますが、団塊の世代の人たちが、いつでも気楽に中長期滞在ができるような施設が町内にはありません。

今後、団塊の世代の人たちが一斉に定年退職を迎えますが、どこに行こうかと考えるとき、ホテルに泊まらなければならないという場所では、普通の都会に滞在するのも同じということになってしまいます。そこで、行けばいつでも泊まれるという施設で、田舎では田舎暮らしができるような態勢をつくっていくべきと思います。モデルハウス、レストハウス、あるいはクラインガルテンといった施設があれば、団塊の世代の人でも誰でも何日でも受け入れることができると思いますので、そういった施設を造ってもらいたいと考えます。そうすれば、団塊の世代の方々が南部町に来てくれるのではないかと思います。

知事

おかげさまで、達者村は全国的にも知られるようになりつつあります。

旧名川町で、町長さんと二人、台風が逸れてくれるよう念じながら、開村式を迎えたこと、そして、開村できたときのうれしさを、今、思い出しています。

この馬淵川流域には、山紫水明の里というイメージがあります。山紫水明のこの美しい場所に一つの理想的な村をつくれないうらうかと、たくさんの方にこの村を好きになってもらって、県外の方々にも来ていただけるような仕組みづくりをしていきたいと、考えました。

先ほどのお話にもありましたが、県外の方の中には、「金の卵」として、集団就職で青森県から出た方がいらっしゃいます。そのような世代の方々が、定年が近くなって、ふるさとのことを思い出す、そういう時期になっています。ふるさと志向は、金の卵の世代の方々に限りません。都会で生まれ育った方々にも、スローライフ・スローフードというのでしょうか、ゆったりと農山村地帯で過ごしたい、可能ならば自分でも畑や果樹園をいじりながら、もう一つの自分の人生を過ごしてみたい、そのような気持ちが高まりつつあるわけです。

もともと、旧名川町では、グリーン・ツーリズムが盛んでしたので、受け入れられる仕組みなどを含めて、素地はありました。また、ここでは、女性が元気でにぎやかで、自分たちみんなでなんとかやってみよう、そのような強い意識がありました。

この町には、唱歌「故郷（ふるさと）」の「兎（うさぎ）追ひ（おい）しかの山、小鮒（こぶな）釣りしかの川」のような、都会に住む方々が理想として胸に抱くふるさとがあります。春になればいろいろな花々が咲き、さまざまな果物があります。これほど美しく、きれいなところはないと私は思っています。

そこで、町長にご提案申し上げ、県としても、仕組みづくりや、キャンペーン、PRを徹底して行うということで、「達者村」がスタートしたわけです。

取組みを進めていく中では、長期滞在してくださる方々も出てきましたし、人材派遣会社のパソナと連携して、農業研修という形で滞在し、ここを一つのふるさとと考えてくれる方々も出てきました。昨年は、田舎暮らしを楽しみながら仕事のキャリアも活かしてみたいという方々を対象に、南部町でもさまざまな体験をしてもらいました。

我々も、今、お話しいただいたように、長期滞在できるような仕組み、あるいは、例えば東京と、南部町とを行ったり来たりする二地域居住ができるような仕組みをつくることはとても大事だと考えました。

そういった観点から、現在利用されていない農地や住宅の情報を発信する仕組みとして、「青森県 空き家・農地情報サイト」(<http://www.npo-aomori.jp/nouchi/index.htm>)というホームページを開設したり、青森県への移住・交流を希望される方、特に退職される団塊世代のセカンドライフをサポートするためのホームページ「あおもりライフ」(<http://www.pref.aomori.lg.jp/aomorilife/>)を開設しましたし、定年後の帰農者、農業地帯に帰ってくる方々を受け入れることに意欲のある市町村を対象とした研修会を開いています。

それから、国の補助事業として、市民農園、滞在施設、コミュニティ広場の整備などを対象とする「元気な地域づくり交付金」があり、これを活用できる可能性はあると思いますが、既存の施設を利用する可能性もあるのではないかと考えます。

達者村は、「オーライ！ニッポン大賞グランプリ」、「JTB交流文化賞優秀賞」などを受賞しましたので、もっともっと団塊の世代の方々に注目していただけたと思いますし、また、団塊の世代の方々を取り込んでいくことができるのではないかと考えます。

県内の市町村からは、グリーン・ツーリズムをもっと拡げて、達者村的なものを進めたいという声があがってきています。あおもりツーリズムという、ゆったり・ゆっくり、青森を楽しみながら、地域に長期滞在できるような仕組みが県内にできてくることを期待しています。

町長

達者村の良いところは、箱物を造ったりしていないところです。だからこそ、ずっと続けていけるのではないかと思います。

さて、町でも、町内の空き家を調査しています。どの程度修繕すれば利用できるのかといったことを調べています。新たに建てるのではなく、あるものを使おうということです。

また、中核農家、担い手農家を増やしていくことと相反するとの考え方もありますが、新規就農時の農地の下限面積について、農地の有効活用という観点から、農業に参入しやすいようもっと低くしてはどうか、農業委員の方々と議論しています。

最小の予算の中で最大の効果を出すためには、新たに建てるということより、まず、「再利用」ということから考えてはどうかと思います。

発言者 1

再利用するにもお金がかかりますし、すぐ住めるような状態のものがあるかないかが課題になると思います。

発言者 2

私は、津軽弁、南部弁を堂々と披露しましょう、ということを提案します。

青森県にしかない方言を、逆手にとって、農産物や観光のPRに役立てたら、青森県の良いところをもっと売り出せるのではないかと、ということです。

青森の方言には、南部弁・津軽弁があるわけですが、我々青森県人は、いろいろなところで、引っ込み事案になっているところがあるのではないのでしょうか。せっかく、すばらしいアイデアや意見を持っていながら、発言しないで損をしているところがたくさんあるのではないのでしょうか。そういうところを、団塊の世代ということになりますが、退職された先生方が、学校で、いろいろな形で、忘れかけた方言・言葉を、将来の青森県を担う子どもたちに教えていただきたいと思います。

先日、九州から友人が来ましたが、その友人は「青森の人は2か国語を話せていいね。すばらしい青森県ですね」と話していました。テレビなどでは、東北弁がおもしろおかしく表現されることがありますが、純粋な青森県を見てもらいたい、そのような意味で提案します。

「小さな宇宙あおもり」です。青森を発信し、ビッグバンのように、青森県をますます膨張させるように頑張ってくださいと思います。これが私の希望です。

知事

言葉というものは、我々にとって、すばらしい宝であり、また、売り物です。

この近辺では名久井岳があったり、県内では十和田湖や奥入瀬溪流、また、おいしい食べ物といった観光的な資源もありますが、訪れてくれる方にとってみれば、言葉というものもすごく魅力的なものではないのでしょうか。

「全然分からない」ということ、これが魅力なのです。

さて、小学校5年生では、地域の方言、地域の言葉ということが教科書のテーマになっています。方言を学ぼうという時間、「小さな宇宙あおもり」を学ぼうという時間があります。

県内の学校では、退職した先生方を含めて、地域のことや青森県のことに詳しい方々をゲストティーチャーとして学校に招き、子どもたちに、直接、言葉も含め、地域のことを教えてもらうようにしています。

ところで、福田課長は、どこの生まれですか。方言について何か思うことはありますか。

高齢福祉保険課・福田課長

私は、三重県出身でございます。

言葉のほうは関西弁ですが、経済的には、愛知県、名古屋の経済圏に入ります。電話番

号も05から始まる名古屋圏の番号となっていますが、これを07から始まる関西のほうの番号に替えてはどうか、といった話題があります。

地域のアイデンティティや言葉は大事だと思います。

発言者2

エッセーで、「日本中が方言の銀河系なのだから」と書いている人もいます。

青森県の人も、恥ずかしながら、方言を大事にして、発信してほしいと思います。

三八地域県民局・中島局長

問診するときに、患者さんが方言を使っても医師や看護師にきちんと伝わるように、方言を共通語で置き換えたものが本で出されています。

方言を否定するのではなく、大事にしながら、きちんと伝わるような工夫ということも、文化、方言を大事にしていく上では必要だと思います。

知事

沖縄県では、島によって違う言葉を活かして、それを本や音楽にしていると聞いたことがあります。言葉というものが、観光において一つの呼び水になっているようです。

新幹線交流推進課職員

今は、女子高生などが、珍しい方言を使ってメールを打ったりする、そんな遊びがあるので、遊び感覚での情報発信もできると思います。

知事

今後、青森に関する知識を問う「青森検定」といったものが検討されていくことになっていますが、そこでは津軽弁・南部弁の知識を試すような問題も出てくるのではないのでしょうか。

発言者3

今お話がありました方言について、私は、達者村で昔語り部をさせていただいております。明治初期に生まれた方から聞いた言葉そのまましゃべりますと、ここに住んでいる方でも分からない人がいます。それでも、あえて置き換えてしゃべるようなことはしません。そのままの言葉で「感じ」を伝えられればいいな、と思っています。

さて、私は、ホームステイでさまざまな方を受け入れてきましたが、昨年、農家民泊に関する許可の要件が緩和されたことにより、普通の農家でも、お客様を受け入れやすくなりました。知事にお礼を申し上げたいと思います。

私の提言は、青森の田舎を日本の田舎としてPRして、「青森の田舎に泊まろう」というふうに、海外からのお客様を呼んではどうかという企画です。

以前、アメリカからいらした方が、両親を東京に案内したら全然喜びませんでした、

青森を案内したら、「これこそ日本だ」と大いに感動したということですので、私たちもこの達者村を海外にPRしてはどうかと思います。

海外の人たちが訪れるようになれば、国内からも、ますます多くの方が訪れるようになると思います。

私も韓国の農家に泊まったことがあります。そのときの感動は生涯忘れられません。ごく一般的な観光地を見てまわるよりも、人とのふれあい、心を込めれば言葉は違って心は通じるという経験がすごく心に残るのです。10年たった今でもいきいきとよみがえってきます。

知事

海外との交流に当たっては、地域対地域の交流、人間対人間の交流が大事になってくると考えます。

私自身、韓国との間の旅行客を増やすために、知事就任以来、戦略的に、旅行会社などに働きかけたり、県庁内にチームをつくったりしてきましたが、その結果、3万人弱の人が訪れてくれるようになりました。

そのような取組みを通じて、お客様のニーズが多様になってきて、日常の暮らしにふれてみたいという希望が出てきているのではないかと感じました。フランスのパカンス村で長期滞在したことのある友人の話を聞いたりするうちに、日本でも、家族で、自然が生み出した本当においしいものを食べながら、ゆったりとした時間を過ごすこと、そのようなことが求められる時代になってくると思いました。

達者村は、この方向でやってきましたし、海外との間でも、そのような取組みが絶対に必要になってくると考えます。グリーン・ツーリズムで農業体験に訪れた県外の高校生の中から、弘前大学に入学して医師になろうと言ってくれる生徒も出てきました。真心での交流は、海外から訪れてくれる方にも絶対通じます。国レベルの外交には、駆け引きがあるかもしれませんが、地域と地域、人と人との交流は、縁があって出会ったのだから、お互いこの時間をより楽しく過ごそうよ、自分の人生の中でこんなおもしろい出会いがあったということをお忘れないようにしようよ、ということから行うのだと思います。

新幹線交流推進課職員

フランスでは、日本の民家や、日本の農村文化などへの関心が高まっています。

先ほどもお話がありましたが、農家民泊は、修学旅行生だけではなく、大人のお客様も受け入れることができるようになりました。これまでは主に国内旅行のエージェントを連れてきましたけれども、これからは、皆様と相談して、エージェントをきちんと迎えられようような体制が整えられれば、海外向けのエージェントも達者村のほうに連れてくるようなことも検討したいと思います。

知事

ゲームソフトの『桃太郎電鉄』では、青森県の特産品がたくさん紹介されています。さ

くらんぼの紅真珠など、問い合わせがたくさんきているそうです。

海外からの農家民泊の受入れやPRについて、エージェントや県庁内の海外誘客担当に話を伝え、可能性調査として、どのような方向で、どのようにすれば可能か、検討させます。

発言者4

なまずは食材としては首都圏で高値で取引されているのですが、養殖したなまずの出荷先を見つけるのに難儀しています。県内外に売り込みたいのですが、具体的な販売先がなく、販売量は横ばいの状態です。生きたままで販売することが望ましいのですが、コストが高くなります。

都会の人にとっても珍味と言えるなまずをたのしめる南部町としてPRすれば、都会の人を南部町に呼び込めるのではないのでしょうか。

なまずのように県内で少数ながらも行われている特産品活動について、県が各種助言や情報発信をすることにより、活動の促進が図られ、元気で魅力ある青森県づくりにつながるのではないかと考えています。

知事

県では、「攻めの農林水産業」を進めています。その一環として、「売れる商品づくり応援隊推進費補助金」というものがあり、商品として売れるものをつくっていく、その段取りをつけるための事業です。

しかし、最も良いのは、地元の名物料理として、こちらに来ていただくことではないかと考えます。東京に有名ななまず料理店があるとすれば、そのような一流の料理店と提携して、「青森にもこんな店がある」ということを広めてもらえばいいのですが。

青森の食材の紹介ということでは、熊谷喜八さんというシェフが青森県の食材を使用した料理を紹介する「K I H A C H I 旬レシピ 青森の四季を料理する」というレシピ集が刊行されますし、テレビ番組での紹介を契機として、県産のシャモロックが高い評価を受けているという例があります。

新幹線交流推進課職員

県庁には、「まるごと青森情報発信」チームという組織があります。マスコミに良いネタを売り込んで、テレビ番組や雑誌にとりあげてもらっていますので、今度、そちらにも伝えたいと思います。

知事

「まるごと青森情報発信」チームは、広告費換算で数十億円にのぼるほどのPR部隊ですので、ちょっと情報収集させていただきます。

もしうまく組めるのであれば、品質は非常に良いものだと思いますので、キャンペーンの仕方によっては、うまくいくのではないかと考えます。

生きてままで販売しなければならないとすれば、厳しいところがあるとは思いますが。ただ、青森市の企業で特殊な技術を持っているところがあるのですが。会社を訪問した際、一見したところ死んでいるようなひらめが、水をかけたらすぐ、生き返ったようにぴちぴち跳ねるさまを見たことがあります。冷蔵でも冷凍でもない一種の冬眠状態にする特殊な技術ということですので、参考にして下さい。

発言者5

地球温暖化に備えて、県南地方をももの主産地にしてはどうかと考えます。既に、早生種から晩生種まで栽培が可能になっています。観光農園に取り組んでいる中でも、ももの人気は非常に高い状況です。りんごなどと比較してみても、栽培を始めてから収穫・販売に至るまでの年数が短く、また、栽培しやすいということもあります。果物の栽培に興味のある団塊の世代の方々を呼び込むためのアピールの材料になるのではないのでしょうか。

知事

県南地方のももの生産量は、県内の約5割を占めています。我々としても、ももに関する戦略は重要なものだと考えており、平成16年度青森県農業生産対策推進方針の「地域の気象条件や経営状況に合った特色ある産地の育成」という項目に、ももを振興作目と位置づけることを付け加えました。

先日、りんごアカデミーという、若い果樹生産農家との勉強会を開催しました。津軽地方でりんごをつくっている方の中にも、既にももの栽培に取り組んでいる方がいらっしゃいました。リスク分散のほか、1個当たりの単価が高いということがあるようです。海外でも、ももについては、多くの引き合いがあると聞いています。

そういったことから、ももに注目し、良い産地をつくるための段取りとして、果樹振興支援事業として、りんごのほかにももを含めた特産果樹を導入する農家への園地整備や苗木・資材購入への補助や、防風網や雨除けハウスの整備を支援する仕組みを実施してきましたし、新年度からも、引き続き、さまざまな支援をしていく必要があると思っています。

高齢福祉保険課・福田課長

金融の分野では、「ポートフォリオ」という言葉があります。資産や投資などの対象を分散するほど、リスクが低下するという考え方ですが、農業経営においても、さまざまな農産物を組み合わせることによりリスク分散を図ることが重要ではないかと思えます。

町長

気温が上がってくれば、この県南地域がももの栽培適地になるということを私も聞いたことがあります。

青森県の農産物ならなんでも、というよりも、例えば南部なら南部といった、地域限定的なブランド化を図っていったほうがPRになるのではないかと思います。

発言者 6

私が提案したいのは、災害対策です。馬淵川は、大雨が降るとすぐに氾濫します。そうすると、川の周辺地域も汚くなります。

知事

災害対策は、住民の安全のためきちんと対応していかなければなりません。

馬淵川に関する治水対策については、これまでも宅地嵩上げなど、部分部分で実施してきましたが、昨年の大雨災害を契機として、国、流域市町、県を構成員とする「馬淵川の総合的な治水対策協議会」を立ち上げ、対策を検討しています。

三八地域県民局・中島局長

本年度中に、総合的な治水対策をまとめることとしています。

発言者 7

安心して暮らせる地域づくりを提案したいと思います。

「団塊世代」と言えば、主に都会のサラリーマンが話題になっているようですが、同じような年齢の方々がここにも住んでいます。ここに住んでいる、とりわけひとり暮らしの方にも、老後が不安だと言う人がいます。学校の空き校舎をどうするかという問題がありますが、春から秋までは農作業に従事するとして、冬の間だけでも、このような方が一緒にいられるよう、空き校舎を有効活用してはどうでしょうか。また、夏の間は、先ほど提案されたような、退職者が安く泊まれる施設としても提供できると思います。

県で「老後に関してこのような対策をしている」ということならば、行ってみようか、という気持ちにもなるし、PRの材料となのではないのでしょうか。

知事

県では、「保健・医療・福祉包括ケアシステム」の構築に取り組んでいます。

包括ケアシステムとは、保健・医療・福祉を一体化して、お一人おひとりの県民の方々に、保健・医療・福祉それぞれの角度から、それぞれ光をあてることによって、本人たちが望んでいる、在宅・在地域に添っていかうとする仕組みです。

この包括ケアシステムを一層進めていくためのツールが「地域連携パス」です。

急性期、回復期といった各段階ごとに、

これまでバラバラだった、病院の医師、かかりつけ医、看護師、保健師、ケアマネジャーなどが結びついて、一人ひとりの県民が病気にかかったときなどに、その県民に必要と



されるケアをお互いに情報交換して、連携して面倒をみていくものです。

例えば、回復期のリハビリテーションについては、自分の家に居ながら、最初に診断してもらった病院の医師と情報交換・連携して、かかりつけ医などにみてもらうことができるようにするものです。今、この地域連携パスを県内全域で取り組むよう進めています。

この地域連携パスは、厚生労働省にも提案して、全国的なモデルとして実施しようとしています。

我々県が行うべき仕事は、「職」の確保、すなわち、仕事をする場の確保と、「安全」の確保だと思っています。

高齢福祉保険課・福田課長

本県の包括ケアシステムは、全国的にもかなり進んでいます。

昨年、介護保険法が改正され、在宅・在地域ということのポイントとして、地域包括支援センターを地域に設置するという新たな形になりましたが、これは国の対策が青森県を迫る形になっていると言えます。地域連携パスについても、全国的な先進モデルとして青森県の取組みが厚生労働省から全国に向けて発信されています。

また、国土交通省と厚生労働省は、高齢者対策として「住まい」というものも大きなポイントになるだろうとの認識で一致しています。県レベルでも、今、建築住宅課において住生活基本計画の策定に向けた作業が進められていますが、当課もその検討会に参画しており、県庁の中でも、高齢者対策部局と住宅対策部局とが連携しながら検討しています。

ご提案いただきましたような内容は、「コミュニティセーフティネットの形成」という言葉で表現されていますが、ハード面のほか、ソフト面、すなわち、地域での見守りのネットワークなどの仕組みづくりについても、今後、検討していく必要があると考えています。

当課としては、地域ケア整備構想というものを来年度策定することにしてしています。そういった中でも、高齢者の住まいのあり方というものを含め、今後の地域ケア対策を考えていきます。

司会

これで、7人の方からのご発言をいただきました。

時間もあまりないのですが、本日傍聴に見えた方からも是非一言、ということでしょうかあっておりましたので、大変恐縮ですが、簡潔にご発言いただければと思います。

会場発言者（男性）

南部盆踊りのナニヤドヤラについて、他県では、盆踊りについて認定証を授与している例があると聞きます。南部町についても、遠く県外からの参加者などに、町長が認定証を授与するといった仕組みを設けて、全国に発信していけばよいのではないのでしょうか。

知事

県民局には、地域活性化協議会というものを設置していますが、そこに対して一つの提案があったということだと思います。

三八地域県民局・中島局長

地域づくりや情報発信のための取組みとして、この地域の文化を発信し、また、来ていただいた方には資格的なものを付与するということは、非常に良いアイデアだと思いますので、個々の市町村での認定をどのようにするかなど、地域の皆さんと一緒にご相談させていただき、検討していきたいと思います。

町長

八戸広域連合では、ナニヤドヤラ街道として活動しています。何らかの機会に話してみたいと思います。

司会

ありがとうございました。

会場発言者2（男性）

学校の先生になりたいのになれない方がたくさんいる一方で、授業をきちんと行っていない先生もいるということを知ってほしいと思います。

全国的に「格差」が問題とされている中で、公務員の給与等は高すぎると思います。

道州制が議論されていますが、予算を地方に持ってきて、余ったときは、貯金しておいて、合併したときに、活用してもらいたいと思います。

障害のある方の中には、さまざまな手続をできない方がいますので、関係機関と連携してほしいと思います。

達者村での修学旅行生等の受入れについて、受入れできない農家がいるということも考えてほしいと思います。

美しいとは幸せだ、という言葉聞いたことがあります。「住んで良かった」と思われる県にしてもらいたいと思います。

知事

教育ということに関しまして、最終的に、地域として大事なものは人材です。このため、県では、「元気青森人の創造」というスローガンのもと、人づくり戦略チームを立ち上げ、いろいろな意味でチャレンジしていく人づくりということに取り組んでいます。

給与につきましては、私自身、カットされています。厳しい財政状況の中で、「まず隗より始めよ」ということで、職員も給与カットに応じてくれています。

地方交付税制度につきましては、地方六団体を通じ、その適切なあり方を国に働きかけています。

障害者の方々への支援につきましては、可能な限り自立できるよう、働く場の確保のた

めの施策などに取り組んでいます。

達者村については、一つの地域像として提案したものであり、今後、更に内容を濃くしていくために、今日いろいろなアイデアをいただいたところですが、引き続き取り組んでいきます。

人と人が良い形で出会うことが幸せにつながるのだと思います。先ほど、海外からお客様をお迎えしてはどうかといったご提案もありましたが、工夫していきたいと考えます。

町長所感

時間がない中、知事も最後まで回答してくださいました。良い意見交換でした。

地域で、また、南部町として、何ができるのかを考えていくに当たっては大事なものは、その地域のみんなが考えるということ、です。できる、やれるようにするためにはどうしたら良いか、役割分担ということを踏まえて、地域で考えていくこと、その上で、行政で支援していくという、このような形をとらなければならないと考えます。地域型、町内型、提案型、このような部分については、行政でもきちんと支援していきたいと思っています。

それから、ブランド化。これを進めるには、差別化がないとブランド化にはならない、ブランド化できないのです。地域にあるものをブランド化するためには、他町村との良い意味での差別化、良いもの同士での競争、こういったものが必要になってくると思います。

また、先ほど、ゲームソフトについて良いアイデアを聞きました。南部町には、良い果物がいっぱいありますし、にんにくもあります。これを取り込んだゲームソフトがあれば、子どもたちが興味を持って南部町の良いところを学ぶことができるようになると思います。

南部町は、合併してようやく1年、まだよちよち歩きの状況ですが、未永く南部町を見守っていただきたいと思います。

司会

それでは、知事から、お願いします。

知事所感

県では、洪水情報をお知らせできる仕組みをつくりました。現在、県内約4千人の方から登録いただいております。早め早めに情報を知ることによって、ご近所にも声がけすることができます。河川増水時には、役に立ちます。防災の一環として、ご登録いただければと思います。(登録ページ：<http://www2.bousai.pref.aomori.jp/mobile/mobile/>)

今日は、皆様方から率直なご意見やアイデアをいただきました。我々としても、いただいた思いを、持ち帰り、それぞれ活かしていくべく、県政を進めていきたいと思っています。

本日は誠にありがとうございました。